

第3回 食品安全文化の可視化に関する研究会 【ガイダンスチーム】議事概要

日時：2025年10月1日（水）

場所：三番町共用会議所／オンライン（Teams）ハイブリッド開催（会場＋オンライン）

次第

1. 開会
2. 情報共有
3. 意見交換
4. 閉会

情報共有

- 体制・進め方
 - ・検討体制を複線化（チームを3分割）し、「実施前ガイダンス」「実施後ガイダンス」「改善計画」それぞれのドラフト作成を並行推進。
 - ・「実施理由（意義）」章のプロット案が提示され、以後は箇条書きではなく段落構成で読みやすく記述する方針。
- ツール運用（評価シート）
 - ・Forms等の回答をExcel「データ反映シート」に貼付し、「結果概要／詳細結果」を自動集計。レーダーチャートや階層・部門別スコアで傾向把握を支援。
 - ・設問は既定の構造（37項目・7件法）を維持。**設問本文や選択肢数を変更しない前提**で運用する。
 - ・属性（部門・役職など）の**表記は各社の用語へ読み替え可**だが、選択肢の個数や並びの変更は不可。影響範囲（表示名の反映可否等）は仕様確認を行う。
- 共有手段
 - ・現状はメールベース。後閲覧・共同編集性を高めるため、Teams／共有フォルダ等の活用を検討（外部者招待やセキュリティ要件の制約あり）。

意見交換

- 「実施理由（意義）」章の骨子
 - ・食品安全はビジネス／ブランドの重要リスクであり、マネジメントシステム（仕組み）だけでは不十分。従業員の行動を支える文化の醸成が不可欠。
 - ・対象読者はミドルマネジメント以上（課長～部長級等）を想定。専門用語は必要最小限にしつつ、用語は「仕組み／アセット」等の平易表現への言い換えも検討。
 - ・表現のトーン調整：
 - 「正しい行動」→価値観の差異に配慮し「食品安全を優先した行動」「食品安全を第

一に考えた判断・行動」等へ。

- 「誰も見ていないところでも…」→規範意識を示しつつ断定を避ける柔らかい表現へ。
 - ・構成は「重要性の提示→測定の必要性→アンケートでの可視化→改善計画（目標・KPI）への接続」の流れで整理。

● アンケートの目的と出力の明確化

- ・何が“見える”かを明示（意識・態度・判断・行動・職場の強み／課題）。
- ・結果サンプル（レーダーチャート、階層・部門別スコアの例）を資料に添付／リンク化し、実施前にイメージを共有。
- ・点数はあくまで目安。形（プロフィール）や推移、背景事実との照合を重視。基準意識の変化により点数が横ばいでも現場は改善し得る点を注記。
- ・スコア至上主義の誤用（「点数を上げること」自体が目的化すること）を避ける記述を実施後ガイドンスへ追記。

● ガイドンス文書への追記方針

- ・目的：自社の食品安全文化の現状把握と改善活動への活用。
- ・実施内容：各社の組織実態に合わせた限定的アレンジを容認（属性ラベルの読み替え等）。設問本文・選択肢数は変更不可。
- ・対象者：全従業員への実施を推奨しつつ、目的に応じた対象絞り込みも可。アルバイト・派遣等の扱いはガイドンスに明記。
- ・注意事項：匿名性・不利益なしを明確化し、正直な回答を促す説明の徹底を記載。
- ・ツール注意：他ツール利用時の互換性、Excel マクロ／自動計算への影響（選択肢数変更不可等）を明示。

● 仕様・表示に関する確認点

- ・属性名称（例：営業部門→営業開発部門）変更が結果画面の表記に反映されるかを要確認。
- ・「結果の見方」節を整備し、サンプルと文言を対応づけて理解を補助。
- ・アンケート結果から目標（文化目標）→KPI→改善計画へ接続する道筋を、実施後ガイドンスで具体化。

● ガイドンスのトーン

- ・数値のみで“文化”は測れない旨を明記。アンケートは複数手法の一つであり、観察／インタビュー・文書確認と併用することを強調。
- ・文量は過不足なく。現行版の早期差し替え（第1弾）と、ブラッシュアップ後の充実版（第2弾）の二段構えも選択肢。

決定・確認事項

- 「実施理由」章は段落体で再構成し、表現は「食品安全を優先した行動」等へ調整する。
- ガイダンスに以下を追記：目的の明確化／属性ラベル読み替えの可否と範囲／匿名性・不利益なし・正直回答の徹底／スコアは目安である旨。
- **設問構造（37 項目・7 件法）は固定。**属性の表記読み替えは可だが、**選択肢数・設問本文の改変は不可。**
- 結果サンプル（レーダーチャート等）を資料に添付またはリンクで提示する。
- 共有基盤の改善（Teams 等）を引き続き検討。

今後の対応（アクション）

- 「実施理由（意義）」章：段落体ドラフトを再作成し回覧（次回会合まで）。
- ガイダンス：
 - ・目的／実施内容／注意事項の追記案を反映。
 - ・「結果の見方」を整備し、**レーダーチャート・部門／階層別スコアのサンプル**を準備。
 - ・「スコアは目安」「誤用防止」等の注記を**実施後ガイダンス**に明記。
- ツール仕様確認：属性ラベル変更時の表示反映、選択肢 7 件固定の再確認、他ツール利用時の互換性注意の明文化。
- 共有環境：ドラフト・成果物の保管／参照フロー（共有フォルダ／Teams）を提案。

以上